

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和7年度）2025

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	9	28	金	9:00	12:30	藤小学校	12名
活動名称	藤小 流しソーメン体験協力					報告者：吉井 優	

1、活動目的

8年前から依頼されて実施している藤小3年野外学習支援を今年も依頼されました。今年6月から実施となりました。小学生が樹林地や河川の里山環境と触れ合うことで、生態系サービスを実感し、未来にむけて鶴ヶ島地域の生態系サービスを増大してくれることを期待します。今年も3年生担当教師からの依頼があり、流しソーメン体験会に協力した。

2、活動内容ほか

スタッフは、9時に集合し、今回使う樋づくりを行った。また、子ども達の体験活動のために、お椀づくりの竹細工作業場として、木陰に3枚のホワイトシートを敷いて、竹置き台と竹ノコギリを設置した。また西側通路木陰に流しソーメンの樋を3本2組設置した。

10時過ぎに児童が集まり、お椀づくりと流しソーメンの説明をした。その後、スタッフにより流しソーメンの樋づくりを見学してもらい、節抜き体験も実施した。

10時半20分ごろから竹細工体験となるお椀づくりを始め、自分の分と、保護者、教師の分まで本日使うお椀を作った。

11時15分くらいから、ソーメンを流す担当と、食べる担当に分かれ、流しソーメン体験を始めた。コロナの伝染回避のため、割りばしを大量に準備し、お椀にいっぱいソーメンを確保して、それを食べた箸は廃棄し、次は、新しい箸でソーメンを取ることであり、唾のついた箸で流れるソーメンを触らない手法を実施した。児童は、お椀二杯のソーメンを食べることができて、満足してくれたと思う。12時前に児童の流しソーメン体験は、終了し、給食時間になった。協力してくれた保護者と、我々スタッフは、残りのソーメンをたいらげ、イベント終了となった。

3、評価：

太い孟宗竹で作った樋と、真竹で作った脚を使っているため、伝統的な本物の流しソーメン体験の雰囲気があり、子どもたちに大好評であった。協力してくれた保護者も新鮮な流しソーメン体験に喜んでくれた。我々も学校の授業で流しソーメンに協力し、参加児童から笑顔で感謝されたことは、里山クラブの活動の一つの目標でもあるため、心地よい達成感を味わえた。

4、課題

80名を超える児童に竹細工の指導を行うには、スタッフの人数がすくなくすぎた。今年は保護者15名の協力参加があり、手伝ってもらえて助かった。

なお、今年は、30度くらいの夏日となったが、水道の近くに木陰が見つかり、お椀づくりも流しソーメンも木陰で実施することができて、ラッキーであった。

流しソーメンの脚部を固定するロープが3年目にして切れた。竹もロープも3年使うのは無理ということです。来年は、より良い脚の作り方に挑戦しますので、アイデアを募集します。

<里山参加会員>

小澤邦、柳川、小沼、小嶋、杉山、佐野、吉井、石川、内藤、小澤弘、村上、阿部

<活動写真>

